

## 建設産業ものづくりの魅力

# 中学生に伝える

型訪問型  
学校キャラバン

### 建設産業戦略的広報推進協議会

建設業団体や国土交通省などがつくる「建設産業戦略的広報推進協議会」は10月31日、さいたま市の春日中学校で、建設業の仕事を体験してもらう学校訪問型キャラバン「建設産業ものづくり体験授業」を行った。写

真。カンナがけの技能を  
実演したアキユラホーム  
の宮沢俊哉社長は「造った家を住み心地がよいと喜んでもらえる夢を描いていけば、つらい修行が楽しい修行に変わるはずだ」と話し、ものづくりの魅力を中学生に訴えた。

体験授業は、同協議会とさいたま市が連携して同中学校のキャリア教育の一環として行われたもの。同協議会は、昨年度から工業高校生を対象にキャラバンを行っていたが、15年度はより建設業への認知が低い小学生にもターゲットを広げ、10月26日にも同じさいたま市の新和小学校で体験授業を行っている。

春日中学校では1年生約270人が体験授業を受けた。国交省土地・建設産業局の木村実建設市場整備課長は「将来、みなさんが建設産業に入りたいと思ってもらえるように体験授業を企画した」とあいさつ。「建設産業に就職しなくても、道路や橋、トンネルなど身近なインフラを建設産業が支えていることを少しでも理解してほしい」と呼び掛けた。



アキユラホームの宮沢社長は、カンナを使った木材加工の技能を実演。カンナで削ることで木材が鏡のように磨かれる技能を生徒らに披露し「技能を極めた時の喜びはひとしおだ」と話した。体験授業では、土木学会が模型で橋・トンネル・地滑り防止の仕組みを説明したほか、大和ハウス工業のロボットスーツ体験、日本左官業組合連合会と埼玉県左官業協会の左官工事体験なども行われた。